

アブダビ首長国が 50 億ドルの国債を発行

九門 康之

(本件は、2020 年 9 月 7 日付けで中東研究センター・ニューズリポートに寄稿したものです。)

<概要>

9 月 2 日、アラブ首長国連邦 (UAE) のアブダビ首長国が総額 50 億ドルの国債発行を完了した。発行の内訳は、3 年物 20 億ドル、10 年物 15 億ドル、50 年物 15 億ドルであった。なかでも、50 年物は湾岸協力理事会 (GCC) 諸国で初めての超長期国債である。国債の利率は、夫々年率で 0.83%、1.73%、および 2.70%であった。

現地の報道によれば、売れ行きは順調で、発行額に対して 4.8 倍の応募があった模様である。新型コロナウイルスの世界的感染拡大で投資機会が減少する中、アブダビ首長国の国債が優良投資先として評価されたためといわれる。同首長国は、Moody's から Aa2 (安定的)、S&P から AA (安定的) と、格付け機関から高い評価を受けている。同首長国は 4 月にも 70 億ドルの国債発行を実施しており、今年 2 回目の大型起債となった。

<背景>

国債発行の目的は、中東・北アフリカ (MENA) の経済を襲っている二つのショックによる歳入の減少に対応するためである。即ち、新型コロナウイルスの蔓延による税収等の経常収入の減少、および原油価格の急落による石油収入減少の補完である (「二つのショック」に関しては、九門「二つのショックに直面する中東・北アフリカ経済」2020 年 4 月 13 日付中東研ニューズリポート寄稿参照)。

アブダビ首長国を含む UAE における新型コロナウイルス感染拡大は 5 月にピークを越えたものの、9 月に入ってからも連日 500 人を超える新規感染者が報告されている。IMF は 2020 年の UAE の実質 GDP 成長率をマイナス 3.5%と予想しており、当面経済活動とそれに伴う歳入の低迷が続くものと思われる。

加えて、2020 年春以降の原油価格の低迷により、政府の石油収入が大きく減少した。アブダビ首長国は、歳入の 56%を石油に依存しており、原油価格の低下は財政への痛手となる。原油価格の代表的銘柄である WTI は 2020 年 4 月の 20 ドルを下回る水準からは回復したものの、現在の年初来の平均価格は 38.3 ドルと、前年の平均価格 56.9 ドルを大きく下回ったままである。

<アラブ首長国連邦 (UAE) の公的債務>

今回の国債発行後、アラブ首長国連邦全体の公的債務残高は 2,445 億ドルで、対 GDP 比率は約 60%となる。これは、中東最大の産油国であるサウジアラビアの公的債務の対 GDP 比率約 23%と比べてはるかに高い。今回の起債の目的は上記の歳入減少を補うことである

が、新型コロナウイルスによる経済活動低迷が継続し、原油価格が回復しなかった場合、さらなる追加起債を実施するかどうか、政府は判断を迫られることになる。

(以上)